

祝 辞

本日ここに、藤田 剛二山陽小野田市 市長様をはじめ、山口
県議会議員 江本 郁夫様、中嶋 光雄様、山陽小野田市 市
議会 議長の小野 泰様、教育長の宮内 茂則様、小野田商工
会議所 副会頭の江田 方志様、山陽商工会議所 会頭の田中
剛男様、本学の教育後援会会長の小田 政之様、同窓会会長の
野村 保夫様をはじめ、ご来賓の皆様方には、ご多忙のなか、平
成二十九年 度 山陽小野田市立 山口東京理科大学の学位記
授与式に、ご臨席を賜り、挙行できますことは、誠に喜びに堪
えないことです。本当に有難うございます。

本日、卒業、並びに修了し 学位を取得される、148名の皆
さんに、ご来賓の皆様、教職員、在校生と共に、心からお祝いを
申し上げます、これまで勉学に励まれ、研鑽を積まれた皆さんの
たゆまぬ努力を深く讃えます。

特に、 留学生の皆さんは、遠く母国を離れ、言葉、文化、習慣
の異なる山陽小野田の地で、環境を克服し、卒業されることに
その努力を称えます。

皆さんが学業に励んでこられた今日まで、この日が来るのを楽
しみにされ、物心両面からしっかりと支えてこられた ご家族
保護者の皆様にも、深甚なる敬意を表するとともに、心よりお
祝いと感謝を申し上げます。

卒業、並びに修了される皆さんは、今日までのさまざまなお思い出と共に、新しい生活への希望をもって、それぞれの道へ旅立っていきます。この門出の日に、このように皆さんに直接語りかける機会をもてることは大変光栄であり、嬉しい限りです。

卒業はよく、『船の出航』にたとえられます。

いってみれば、皆さんが過ごしてきた大学での生活は、航海に出るための準備期間でした。

これから、自分という船を、自らが建てた海図に従って、新たな道へ歩いていくことができるのは、これまで皆さんが行ってきた努力の結果であることはもちろんですが、皆さんを支援してこられた、多くの方々への深い愛情と、限りないお力添えのお陰であるということをお忘れず、改めてその方々への感謝の念を思い起こしてください。

さて、「卒業」は、英語では「graduate または commencement」と表現され、能力などがある段階から、一段高い段階へ進んでいく始まりを意味し、日本語での、「卒業」という、「学校で定められた所定の課程を学び終える」という意味とはニュアンスが異なり、学びに終わりはないのです。

皆さんは、まさしく、本学において、それぞれの専門分野、教養などの力が、一段高い段階へ進んだことを証明していただいたわけです。

この証明書をもって社会に出ると、各人の力が試されるのです。

今後は、山口東京理科大学の卒業生、並びに修了生としての自覚と自信を持って、更なる高みを目指し、それぞれの社会におけるキーパーソンとして、自らが描いた夢を着実に実現されることを 私は切に願っています。

ここから見る、皆さんの顔は、凜々しく、また逞しく見えます。この頼もしい皆さんは、これからお互いの人生の良き仲間、共に困難に立ち向かうパートナー、切磋琢磨するライバルとなる人たちです。

この大学で培った関係を長く温め、大切にして下さい。

ライバルといえば、今回のピョンチャン オリンピックで感動した出来事がありました。

スピードスケート 女子500メートルに出場した小平奈緒選手とイ・サンファ選手の順位が確定した直後、涙を流すイ選手を、小平選手がだきしめる姿に感動した というツイートが相次いだそうです。その後、イ選手は、自らのブログで、オリンピックという精神的にも肉体的にも消耗が激しいなかで、オリンピック新記録を出した、ライバルである小平選手を祝福しています。さらに、「お互いから学べるものがたくさんある」とも語っています。

お互いに、切磋琢磨を重ねた4年間の激闘の末に生まれた、氷上で互いを称えあうシーンは、ピョンチャン オリンピックの記憶に残る名シーンの一つでありました。

皆さんも、このようなライバルに出会うことによって、お互いがさらに飛躍すると信じます。

ところで、現在の世界はあらゆる面で、グローバル化が著しく加速していることもあり、社会から求められる能力も多様化しています。

このような時代に求められるリーダー像としては、異なる文化、社会システム、生活習慣、歴史などを理解して、広い視野をもったリーダーシップのある人です。

しかし、一方で、いつの時代のリーダーにも共通して求められるものは、深い知性と その知性に裏打ちされた豊かな教養を身に付けていること ではないでしょうか。

今日の学位記授与式を迎えられた皆さんは、入学した時と比べて、はるかにたくましく、また、人間的にも大きく成長したことを実感していることと思います。

これから、勇気ある知識人として、夢の実現に向けて、さらに高みを目指そうと希望に燃えている皆さんに、私が若いころ先輩から教えていただき、心掛けてきた言葉を餞に送ります。

それは、「志」と「三つの目」という二つの言葉です。

「志」といえば、まず思い浮かぶのが、山口県が生んだ偉大な教育者でもある吉田松陰先生です。

吉田松陰先生は、「志の在る所、気も亦従う。志気の在る所、遠くして至るべからざる なく、難して 為すべからざるものな

し。」と述べています。

さらに、「志があればどんなに目標が遠くとも達成できる。必ずやれる」という志がなければ、事は成し遂げられない。

大事なことを任された者は、才能を頼みとするようでも、知識を頼みとするようでも駄目である。必ず志を立てて、やる気を出し努力することによってうまくいく」と述べています。

皆さん、ぜひ、この吉田松陰先生の言葉をかみしめて、卒業するにあたって 各自の「志」とは何か、改めて考えていただければと思います。

そして、この“志”を持ち目標に向かって物事を進める際に、私がかねてから心がけてきた言葉があります。それが、鳥の目、虫の目、魚の目、といわれる「三つの目」です。

ここで、この、“三つの目”についてお話しするために、この視点から山口東京理科大学を取り上げてみましょう。

本学の向かうべき方向性について、まず、“鳥の目”、すなわち、「木を見て森を見ず」でいうところの、「森」を見る目で見てみます。

今、世界は社会構造や生活様式など、あらゆる面で大きな変革期にあります。英国の「**B**」離脱、グローバリゼーションと反グローバリゼーション、ポピュリズムの急速な台頭、などのなかで、大
学に関わる状況についてみても、情報化社会の急速な進展、知識社会の台頭、日本においては十八歳人口の減少、などに伴っ

て、大学間の競争はますます厳しさを増しています。このような中で、山口東京理科大学は永遠の発展を目指して、特色のある教育・研究・社会連携に努めていかなければなりません。

一方、本学の現状については、全教職員自らが、現場・現物・現実を“虫の目”で細部にわたって、複眼的にとらえて、判断することが重要です。

その結果、良い点のみならず、改善点についても気付き、きめ細かな配慮が可能となるうえ、課題に対する具体的な対応策も立てやすくなります。

そのうえで、“魚の目”で、物事の流れや変化といった“動き”を見極めることが大切です。

大学全体のおかれている現状や、時代の流れを的確に読み、我が大学の特徴や使命を再認識して、新たに切り開いていく内容、そのタイミング、程度などを決め、最終的に、これら三つの目から見た山口東京理科大学 独自の戦略を立てることによって、変革の波を乗り越え、我が大学は永続的に発展していくことが可能になると考えます。

「三つの目」について、卒業される皆さんも、これから、個人として、またグループの一員として、様々の課題について判断を求められる機会が数多く訪れることと思います。

このような時には、ぜひ、「バランスの取れた“三つの目”を持った

判断が大切である」ということを思い出し出してください。

与えられた仕事や物事が成功するように、そして自分の「夢」が実現するように、広い視野を持ち、自らが見た現実をもとに、潮目も読みながら、優先順位を決めて 進めることのできる、人材となることを目指して努力していただくことを期待します。

このためにも、ぜひ、お話した“三つの目”という視点から、自己の長所を分析してください。

その結果、自分が弱いと考える “目” を自覚したとしても、補ってくれる人を見つけ、連携することによって、最強の目を持ったチームの一員として活躍することができるようになります。

最後になりますが、皆さんを今日まで熱心に指導してくださいました先生方、 勉学や生活に必要な素晴らしい支援をしてこられた職員の方々に、心から敬意を表し、御礼を申し上げます。

山陽小野田市直 山口東京理科大学は、在校生、教職員、卒業生、市民の方々と共に、広い視野をもって、つねに 高みをめざし何事にも誠実に取り組む人材を育てていくと共に、皆さん同窓生が必要だと感じた時には、いつでも戻ってこられる “開かれた場” となるように努めてまいります。

皆さんと山口東京理科大学のつながりは永遠です。

今日、卒業並びに修了される皆さんには、健全な肉体と精神、そして、人間が持つ感性のすばらしさをもって、多様な人がすごす 社会というフィールドで、自らの場所を見つけてご活躍さ

れることを願っています。

万感の思いを込めて、改めて 皆さんのご卒業、並びに修了と、大きく開かれた前途をお祝いするとともに、皆さんのご健闘とご臨席いただきました皆様の^ご健勝を祈念して、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

平成三十年三月二十一日

公立大学法人 山陽小野田市立 山口東京理科大学

理事長 池北雅彦